

平成 16 年 1 月の解説

【1月の週間天気予報から】——悪天予想の広がり——

1月の週間天気予報の中で特に注目したいのが17日の天気でした。17日には太平洋南岸に沿って低気圧が通過し、太平洋側の地方で悪天となることが5日前から予想されていました。しかし、17日夜の低気圧の予想位置は、12日以降の数値予報モデルによる予想では日によって北緯32度から34度とばらつき、低気圧の強さの予想も変動したため、悪天の広がりについては予想が難しいものとなりました。このため、12日からの5日間すべてについて、関東甲信地方の週間天気予報としては、全域で雨または雪と予報しました。実況は、予報通り関東甲信地方全域で雪やみぞれとなりましたが、低気圧が予想よりやや南を通過したため関東地方北部は雪がばらつく程度でした。

【1月の天候状況及び検証結果】

1月の全般的な天候状況は、低気圧が短い周期で日本付近を通過し、東・西日本の日本海側や北日本では暴風や大雪の天気となる日がありました。特に、中旬には北海道のオホーツク海側では記録的な大雪となりました。また、中旬後半から下旬前半にかけては強い寒気が東日本以西に入りました。北日本の降水量は平年を上回ったところがありましたが、東・西日本の太平洋側や南西諸島では低気圧の影響は小さく平年を下回りました。

このような天候状況の中で、予報期間平均の「降水の有無」の適中率は、全国平均では例年に比べて1ポイント良い72%で、東海地方では例年に比べ5ポイント良く、逆に北陸地方では7ポイント悪い結果でした。

1月の全般的な気温の状況は、北日本では平年を上回り、東日本の一部では平年を上回ったところがありましたが、西日本、南西諸島では平年を下回ったところが多くありました。

このような気温の特徴でしたが、全国平均の最高・最低気温の予報誤差は、予報期間平均でそれぞれ例年並の2.2℃及び2.1℃でした。

【3月の天候の特徴】

3月は春から冬への過渡的な時期です。春の特徴の移動性高気圧に覆われて穏やかな日もありますが、逆に冬型の気圧配置が卓越して寒の戻りを思わせることがあります。さらに本州南岸を進む低気圧により沿岸各地に雪をもたらすこともあり、また梅雨を思わせる菜種梅雨のように本州南岸に前線が停滞し比較的長雨となることもあります。なお、3月における週間天気予報の「降水の有無」の適中率（予報期間平均）は例年平均で約66%です。

【週間天気予報の利用に際して】

週間予報の精度向上に向け、数値予報モデルの改良や予測手法の改善を一層続け、予報精度のさらなる向上を目指していますが、予報期間後半の予報ほど精度が落ちますので、週間天気予報を利用される場合には、発表時に付加しています信頼度を参考にさせていただくとともに、できるだけ最新の天気予報をご利用ください。